



東北大学 知のフォーラム 2019 テーマプログラム『がん - その生物学から受容まで』
第3回 国際シンポジウム *Clinical Research and Supportive Therapy*

緩和ケアの臨床における患者報告型アウトカムと 専門的緩和ケアの質の評価に関する国際フォーラム - オーストラリア PCOC の実践から学び、日本や東アジアの将来を考える -

1日目 2020年1月18日(土) 13:00 ~ 17:20

テーマ：緩和ケアにおける患者アウトカムの測定と質の評価：オーストラリア、韓国、台湾の実践から学ぶ

2日目 2020年1月19日(日) 9:00 ~ 15:10

テーマ：Patient-oriented outcome への挑戦：オーストラリアの実践からの学びと東アジアでの挑戦

※ 当日は英語でのシンポジウムですが、全講演スライドについて簡単に和訳したものを配布予定です。

Speakers

Barbara Daveson (PCOC, University of Wollongong)
Sabina Clapham (PCOC, University of Wollongong)
So-Hi Kwon (Kyungpook National University)
Yoon-Jung Chang (National Hospice Center)
Jason Lee (Taipei City Hospital)
Takashi Yamaguchi (Konan Hospital)
Akihiro Sakashita (Kobe University)
Maho Aoyama (Tohoku University)
Mitsunori Miyashita (Tohoku University)

日時：2020年1月18日(土)、19日(日)

会場：東北大学 片平キャンパス 知の館 3F 講義室

対象：医師、看護師、その他多職種歓迎

参加費：無料、要申込

【お問合せ先】東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野

E-mail : pn@med.tohoku.ac.jp

TEL : 022-717-7924

詳細はこちら ⇒ <http://www.tfc.tohoku.ac.jp/event/4246.html>

※ 参加には事前登録が必要です。URLより事前にご登録ください。



JSPM

主催：東北大学 研究推進・支援機構 知の創出センター
共催：未来型医療創造卓越大学院プログラム
後援：日本緩和医療学会

東北大学知のフォーラム

<http://www.tfc.tohoku.ac.jp/>

シンポジウム 3: 緩和ケア

開催日: 2020年1月18-19日

場所: 東北大学片平キャンパス

メインテーマ:

緩和ケアの質、ベンチマーキングと緩和ケアにおける患者報告型アウトカム(PROs)

講演者(予定):

Dr. Barbara Daveson (Australia; PCOC, University of Wollongong)

Mrs. Sabina Clapham (Australia; PCOC, University of Wollongong)

Dr. So-Hi Kwon (Korea; Kyungpook National University)

Dr. Yoon-Jung Chang (Korea; National Hospice Center)

Dr. Jason Lee (Taiwan; Taipei City Hospital)

Dr. Takashi Yamaguchi (Japan; Konan Hospital)

Dr. Akihiro Sakashita (Japan; Kobe University)

Dr. Maho Aoyama (Japan; Tohoku University)

Prof. Mitsunori Miyashita (Japan; Tohoku University)

※英語でのシンポジウムですが、分かりやすくゆっくり話していただき、さらに全講演スライドについて簡単に和訳したものを当日配布をする予定です。

1日目 2020年1月18日(土)

テーマ:

緩和ケアにおける患者アウトカムの測定と質の評価：オーストラリア、韓国、台湾の実践から学ぶ

各国の緩和ケアの発展と緩和ケアの質の評価：互いの理解を深め、他国の実践から学ぶ。主たる国レベルのストラクチャや調査結果などを出してもらい、各国がどのように評価をしているかを話してもらう。

Time table

Opening remarks	
13:00-13:10	開会の挨拶 (宮下光令)
Session 1: オーストラリア・台湾・韓国・日本における緩和ケアの現状と質の評価	
13:10-13:50	オーストラリアの緩和ケアモデルの発展と可能性 (Mrs. Sabina Clapham)
13:50-14:30	台湾における緩和ケアの質向上プロジェクトの開発と実装 (Dr. Jason Lee)
14:30-15:10	韓国における緩和ケアのあゆみと現状および質の評価 (Dr. Yoon-Jung Chang)
Coffee break (20min)	
15:30-16:10	日本における緩和ケアのあゆみと現状、および全国質評価プログラム (Prof. Mitsunori Miyashita)
全体討議	
16:10-17:10	議題：検討中 (案) <ul style="list-style-type: none">・ 国レベルで緩和ケアの質をどのように評価していくのがよいか？・ 遺族調査は？(利点, 限界, 課題など)・ 各国の現状
17:10-17:20	まとめ 閉会のあいさつ
17:20-19:00	懇親会 - 軽食

Sunday, January 19th, 2020

Theme:

Patient-oriented outcome への挑戦：オーストラリアの実践からの学びと東アジアでの挑戦

オーストラリアの PCOC について学ぶ。東アジアで PRO を緩和ケアで利用することが可能か、文化的側面も含めてディスカッションする。

Time table

基調講演	
9:00-10:00	オーストラリア Palliative Care Outcomes Collaboration:患者・家族アウトカム向上 に対する国家レベルの取り組み (Dr. Barbara Daveson)
問題提起	
10:00-10:20	問題提起 日本における PRO の現状とバリア (Dr. Maho Aoyama)
Coffee break (20min)	
Session 2: 台湾と韓国における PROs (IPOS) 取り組み	
10:40-11:20	台湾における PROs (IPOS) の使用 (Dr. Jason Lee) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
11:20-12:00	意思疎通の難しい患者の痛みを評価することは可能か? (Dr. So-Hi Kwon) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
Lunch (60 min)	
Session 3: 日本における PROs の臨床使用	
13:00-13:30	日本の緩和ケア病棟における ESAS の臨床使用 (Dr. Takashi Yamaguchi) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
13:30-14:00	日本の緩和ケアチームにおける IPOS の臨床使用 (Dr. Akihiro Sakashita) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
全体討議	
14:00-15:00	Topics : TBC ・アジアの状況についてオーストラリアからのコメント ・東アジアの緩和ケアでも PRO は可能か? 治療期では OK だろうが緩和ケアでは? ・患者アウトカムは ESAS か IPOS か (NRS か VRS か) ・アウトカム測定を臨床につなげるには? ・今後の協働研究の可能性
Closing remarks	
15:00-15:10	閉会の挨拶